

2026年1月	<h1>青空機械新聞</h1> <p>業界ニュースとトレンド紹介</p>	発行 第29号
---------	--------------------------------------	------------

行くぞ！2026年！！

年が明け、各業界の賀詞交歓会が開催されておりますが、我々の業界の先行きを示す日本工作機械工業会(通称：日工会)の賀詞会も行われ、2026年通期の受注見通しが1兆7000億円との発表がありました。昨年の受注合計額1兆6000億円(推定値)を上回り、非常に強い数字予測となりました。

来たる好景気に向け、皆様の将来に大きく影響する設備投資を全力でサポートさせて頂きま
す。設備投資をお考えの方は、お早めにご相談
頂けます様お願いいたします。

日本国内受注数字

2025年11月受注額：約319億円
※鍛圧・板金機械は含まず。
前月比**10.4%減**、前年同月比**6.8%増**とな
りました。

11月は建機、金型、航空機以外は前月比
でマイナスとなり、最もボリュームの大きい鉄工所
からの受注が前月比**10.3%減**となったことが
最大の要因で全体の数字を落しました。

航空機向けは高水準を継続しており、前月比
74.2%増、前年同月比では**300%超**となっ
ております。自動車も前年同月比**120%超**と
2カ月連続で前年を上回っており、復調を期待
させます。

発行元 会社概要
会社名：株式会社青空機械 (あおぞらきかい)
代表者：青木 佑典(あおき ゆうすけ)
主な事業内容：工作機械販売
住所：新潟県新潟市東区中山4-4-13-3
TEL：070-8303-6632
FAX：050-3588-8241
Email：aoki@bsmt.co.jp

2025年11月 米国工作機械受注について

2025年11月米国機械受注額
\$437.9million(約678億円／
\$ 1= ¥ 155換算)
11月は前月比**19.6%減**、前年
同月比では同じ数字となりました。

2025年1月から11月までの機
械受注総額は**49億2000万ドル**
(約7,630億円)となり、前年同期
比で**17.8%**の増加となりました。

11月の受注金額は前月比でマ
イナスとなりましたが、11月の平均
受注額より**約26%高く**、8月から
始まった上昇基調は継続していると
考えられます。

航空・宇宙分野は依然として高
水準の受注を維持しており、金型、
特殊工具、産業機械関連の受注
も増加傾向にあります。また、北米
は鉄鋼・アルミニウム生産を増加さ
せている数少ない地域の一つであ



る為、鉄鋼関連の設備投資が大幅
に増加しています。全体的な傾向と
して、2026年の好景気を予想して
の備えであると考えております。

2025年11月に受注額が減少し
たものの、工作機械市場は堅調な
基盤を維持しており、12月の受注
額を含めない1 - 11月の合計額が
既に前年の通期額を**約5%**上回っ
ています。2026年も引き続き、税制
優遇措置と金融緩和が製造業への
追加投資を促進する可能性が高い
と考えます。
(AMTレポートより)

2025年12月 米国自動車販売台数(新車)

2025年12月米国新車販売台
数は前年同月比**2.5%減**の**146
万2,226台**でした。通年では前年
比**1.9%増**の**1,626万8,873
台**でした。※**米国では1,700万
台/年を超えると自動車販売が好
調とされております。**

昨年9月末で終了した電気自動
車(EV)の税制控除の影響により、
EV需要が大幅に落ち込み、関税
対象の製品が従来の非関税対象
在庫を置き換えていく中で、価格が

上昇しつつあり、販売が鈍化してい
ます。更に一部のメーカーでは、中
国資本のオランダ半導体メーカー
Nexperia問題に起因する世界的な半導体不足の影響を未だに
引きずっています。値ごろ感のある
モデルへの志向、高い借入コスト、
関税影響による値上げ圧力、EV
需要の鈍化などのマイナス要因の
払拭は容易ではなく、2026年も
引き続き新車販売の足かせになる
ものと推測されています。

米国メーカーの12月販売は、**GM**が前年同月比4.1%減(通年では前年比5.6%増)、通年でGMCブランドが過去最高を記録しました。**フォード**は7.2%増(同6.4%増)、**ステランティス**は2.9%増(同3.1%減)、**テスラ**はEV税制控除終了の影響が直撃し18.1%減(同9.4%減)と3カ月連続で大幅減となりました。テスラは対応策として、昨年10月に「Model 3」と「Model Y」の廉価グレードを発表し、予約を開始しましたが、今のところ効果は表れておりません。

日本車の12月販売は、トヨタが10.3%増(同7.9%増)、通年ではEVが17.6%増(販売比率47%)となるとともに、レクサスブランドが過去最高を記録しました。ホンダは12.5%の大幅減(同0.5%増)となりました。同社はNexperia関連の半導体

供給不足により、北米工場で3週間生産を調整しました。既に通常稼働に戻っているものの、在庫減による販売への影響が続いています。また、ミッドサイズ電気SUV「プロローグ」の販売が88%減と大きく落ち込んでおります。日産は10.4%増(同0.2%増)となったものの、インフィニティブランドは8四半期連続のマイナスとなり、厳しい販売が続いております。スバルは7.2%減(同3.6%減)で、パンデミックや半導体不足の影響があった2022年以降初めてのマイナスに転じました。輸入車比率の高いマツダは18.9%減(同3.3%減)、全社輸入の三菱は22.9%減(同16.2%減)とトランプ関税の影響を回避する事が出来ませんでした。(マークラインズより)

人生いろいろ、機械の買い方もいろいろ

経営者の考え方、会社の経営状況により設備投資の資金繰りは様々かと思います。経営者の方には釈迦に説法ですが、改めて主な機械購入3方法についてそれぞれの代表的なメリット・デメリットをご説明いたします。

◇自己資金(無借金)で購入◇

<メリット>

- ①借金をしていない安心感、次世代へ借金を残さない親心。
- ②自己資金内の投資の為、無茶な投資の可能性は低い。

<デメリット>

- ①自己資金を使う為、現金が減ってしまう。
- ②資金が貯まってからの設備投資の為、ビジネスチャンスを逃してしまう可能性がある。

◇銀行借入で購入◇

<メリット>

- ①自己資金(現金)を温存する事が出来る。

②ビジネスチャンスを逃さないタイムリーな設備投資が可能。

<デメリット>

①保証協会費用、金利負担有り。

→しかし、これらは経費算入できます。

②借りられる金額 ≠ 返済できる金額の場合有り。

◇リースで購入◇

<メリット>

①毎月決まった金額を経費計上する為、経理が簡単。

②銀行の融資枠を温存する事が出来る。

<デメリット>

①銀行借入に比べ、割高である？

→費用の中には固定資産税、動産保険が含まれる。

②いつまでも自分のものにならない？

→大きな勘違いです。確かに一部の悪徳リース会社では永遠に再リース契約を結ばされますが、通常7年リースの場合は、リース期間終了後は3回(年)の再リース契約後に無償譲渡となります。

※再リース料(年額)は当初リース料(年額)の約1/10です。

機械購入の資金調達方法のアドバイスもさせていただきます！！

機械、工場内設備に関してご質問等がございましたら、お気軽に当社までお問合せください。

TEL : 070-8303-6632

FAX : 050-3588-8241

E-mail : aoki@bsmt.co.jp

青 空 機 械

検索

また、新規の機械購入以外にも既存設備のアフターメンテナンスについてもお手伝いをさせていただきます。

例)今は存在しないメーカーの機械修理、現在の窓口商社を変えたい等々。

まずはお気軽にご連絡ください！！

青木社長の略歴

1986年6月生まれ(満39歳)

2009年 (株)兼松KGK 入社

2010年

↓

同社新潟営業所勤務

2016年

2016年 日鉄物産マテックス(株) 入社

2017年

↓

日鉄物産(株) 米国法人出向

2020年

2021年 ユアサ商事(株) 入社

↓

同社新潟支店勤務

2024年

2024年 (株)青空機械 設立